

## 2014年のインターンに聞いてみました！

IMFアジア太平洋地域事務所ではエコノミストと広報のポジションで毎年各1名のインターンを募集しています。さっそくですが、2014年のインターン参加者に話を聞いてみましょう。

まずは広報インターンの真鍋理人さん

### —インターンに応募しようと思ったきっかけは何ですか？

将来は国際機関で環境や開発関連の仕事をするのが目標で、国際機関の働きを知るという意味で応募しました。本を読んだり、人に話を聞いても分からない部分もあるので、中に入って実際に経験してみようと思ったのがきっかけです。

### —広報とはどんなお仕事ですか？

広報という仕事は多岐に渡りますが、主な業務として、イベントの準備、ノベルティや広報資料の作成が挙げられます。2014年9月に専務理事であるクリスティーヌ・ラガルド氏が来日しましたが、その際の概要書の作成やインタビューのお手伝いもしました。

### —特に思い出に残るような経験はありましたか？

やはりラガルド氏の来日ですね。世界でもっともパワフルな女性の一人とも呼ばれている方と一緒にお仕事させて頂くのは、非常に貴重な経験でした。

### —アジア太平洋地域事務所とはどんな所ですか？

OAPとも呼ばれているこの事務所では、アジア太平洋地域の経済や金融の動向をモニタリングしたり、経済政策の分析などを行っています。職員12名ほどの小さな事務所で、風通しが良く、皆さんフラットに接してくれています。

### —将来のインターンに向けて何か一言お願いします。

インターンを通じて、国際機関で働くという目標が具体化されました。OAPではインターンの仕事というものがなく、実際に職員の方がされている仕事をさせてもらえます。チャレンジングではありますが、その分得られるものも大きいです。ぜひたくさんの方に応募してほしいと思います。



まなべ・のりと  
1989年生まれ。  
英国University College Londonの  
修士課程で環境学を専攻。  
インターン期間: 4ヶ月



グローバルフェスタ2014にて

会場では作成した資料を使いながら、IMFの役割や歴史などを紹介しました。また、クイズに答えた方にはノベルティグッズをプレゼントするなど、多くの方に興味を持ってもらえるよう心がけました。



私が作成したIMFグッズです。

続いてはエコノミストインターンの村山健太郎さん

### ー簡単に自己紹介をお願いします。

私はアメリカの大学院の博士課程で開発経済と貿易について学んでいます。IMFを含めた国際機関で将来働きたいと考えており、リサーチだけでなく、日々のオペレーションや経済のモニタリングにも興味があり、このインターンに応募しました。そういった経験は「学校」ではできない経験だと思います。

### ーエコノミストのインターンでは、どのような業務を担当されていますか？

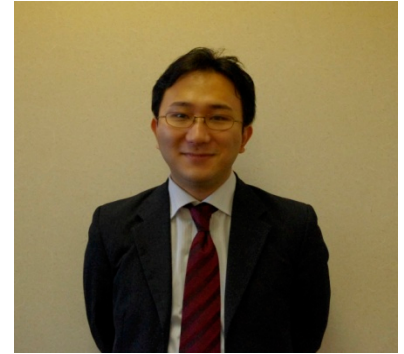
インターンを始める際に課題をもらい、リサーチを行いました。日本の経済成長と平等性について、アベノミクスという現状の政策がもつ潜在的な影響について調べました。また、日本経済における女性の雇用、そして高齢化による影響なども調べました。たとえば、デフレ脱却や女性の雇用促進などといった政策ですね。また、定期的な報告に加え、政府や日銀の発表があったときにも、最新の情報を本部に伝える業務も担当しました。

### ーインターン中に苦労したことはありましたか？

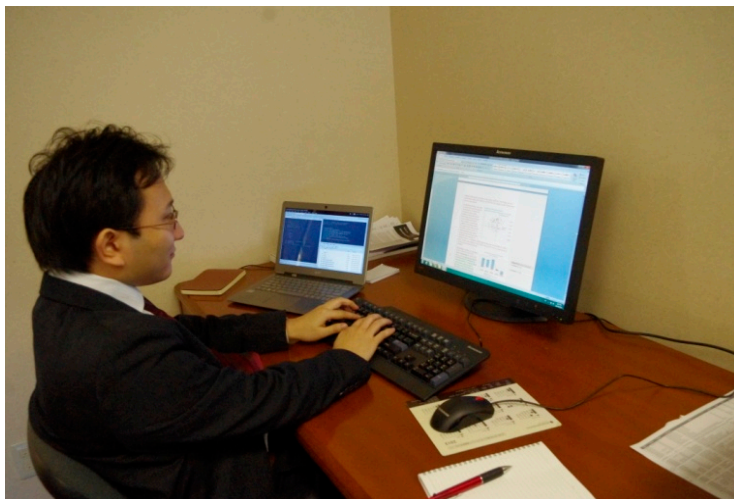
大学で研究する場合は特定の分野だけに精通していればいいのですが、IMFのインターンでは、幅広い知識が要求されました。IMFの刊行物に関する問い合わせに答えるという業務もありましたが、様々な質問に対応できる知識も必要でしたので、苦労しましたが、自分の成長に繋がりました。

### ーこれからインターンを目指す人にメッセージをお願いします。

インターン中はリサーチの時間もたくさんありましたし、それに加えて日々のオペレーション業務に携われたのは貴重な経験でした。刊行物に関する質問への対応も、知識を養う上で役立ちました。視野の広がる経験でしたので、興味のある人にはぜひ参加してほしいです。



むらやま・けんたろう  
1983年生まれ。  
米国・American Universityの  
博士課程で経済学を専攻。  
インターン期間: 4ヶ月



### ある日のスケジュール

- 10:00 出勤
- 11:00 新聞記事・経済指標のチェック
- 11:30 上司と打ち合わせ
- 12:00 ランチ
- 13:00 リサーチ
- 15:00 スタッフミーティング
- 16:00 本部から来た職員とミーティング
- 17:00 リサーチ
- 18:00 退社

村山さん、真鍋さんにインターン中のお話をざっくばらんに語ってもらいました。

#### —インターン中の楽しみや思い出はなんでしたか？

村山 インタビューや訪問の際に各分野の専門家からお話を聞かせて頂けるのはおもしろい経験でした。また、インターン同士で話したのもいい思い出です。

真鍋 お昼休みのランチが楽しみでした。オフィスの近辺にはおいしいレストランがたくさんあるので、職員の方によく連れて行ってもらっていました。そこで皆さんといろんなお話させて頂いたのもいい思い出です。

#### —お二人とも海外の大学院で勉強されていたようですが、どのようなことを学んでいましたか？

真鍋 僕は環境学を学んでいました。温暖化、持続可能な開発、生物の多様性といったトピックを扱っており、修士論文は日本の原子力発電所について書きました。

村山 博士論文ではサハラ以南のアフリカの食料安全保障について書いています。国単位で見るのではなく、地域差や個人差で見るのも必要だと気付きました。そうすると、国という枠組みでは見つからないことも見えてきます。

#### —将来はどのようなキャリアを考えていますか？

村山 リサーチと現場のオペレーションのどちらにも関わることでできる仕事に就きたいと考えています。シンクタンクや国際機関などで開発関連の仕事ができればと思います。

真鍋 2015年の4月から総合商社で働く予定になっています。環境やインフラ事業に携わることができればと思います。そして、将来的には国際機関で環境関連の仕事がしたいです。

#### —最後に、インターンを終えての感想を聞かせて下さい。

真鍋 日本にいながら国際機関で働けるという非常に貴重な機会でした。「国際機関の働きを知る」という本来の目的も果たすことができました。大学院生にはぜひ夏休みの期間を利用して、インターンに参加してほしいです。

村山 非常に学びが多い経験でした。いろんな分野の専門家と知り合えたことも貴重でした。IMFの職員の方を見ていても、専門分野の人脈が非常に大きいので、人との出会いが財産になりました。

